

科目名	映像音響 1							年度	2024
英語科目名	Audiovisual 1							学期	前期
学科・学年	音響芸術科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	瀧口裕正	教員の実務経験		有	実務経験の職種		エンジニア		
【科目の目的】 電気・音響機器・映像機器・映像信号等の基本理論・原理を理解し、作品制作への応用力を身につける。音楽業界ではレコーディングスタジオ等、映像業界ではMAスタジオ・ビデオ編集室等のポストプロダクションで求められる知識・技術を身につけることにより就職活動・研修・現場で役に立つ実践的な内容を理解する。									
【科目の概要】 映像や放送関連の用語・機器について学習します。テキストは毎回配布し資料（スライド）・素材映像等を使用し説明をする。また、配布資料の静止画では分かりずらいところは動画を制作しいつでも確認できるようにしている。授業が一方通行にならないように課題等により学生が自分で考えて答えられるようにする。理解度確認・用語を覚えるために毎回小テストを行い解説する。									
【到達目標】 A. 電気概論を理解し、音響機器・映像機器の基本原理を理解し実践で活用できる。 B. 映像信号の構成が理解できる。 C. 同期・タイムコードを理解し実践で活用できる。									
【授業の注意点】 資料は卒業後も確認できるようになっているので、しっかり管理しておく。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	周波数成分を理解してFFTのイメージができる。	テレビ放送のシステムが理解できている。	電力について理解し、消費電力が答えられる。	オームの法則を利用した計算ができない。	AC電源・DC電源の区別ができない。				
到達目標 B	コンボジットビデオ信号の構成が理解できている。	同期（シンク）・同期信号の必要性が理解できている。	光の3要素とビデオ信号の関係が理解できている。	光の3要素について理解し、答えられない。	テレビにおける3原色が答えられない。				
到達目標 C	外部同期を理解し、スタジオ等でどのように使用されているか答えられる。	現場でのタイムコードの使用方法が理解できている。	ドロップフレーム・ノンドロップフレームについて理解できている。	有効走査線・フレームレート・スキャン方式の表示が理解できていない。	フレームレートについて理解できていない。				
【教科書】 音響映像設備マニュアル（2023年改訂版）									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づいて行う。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

